立教大学

世界を知り、未来を考え、将来の夢に出会う。そんな学びができ、グローバルリーダーとしての力が身につく大学こそ、10年後の立教大学の「あるべき姿」です。そのための目標と取り組みを宣言した『Rikkyo Global 24』を中心に、山口副総長にお話を伺いました。



立教大学の『スーパーグローバル大学創成支援』事業への取り組みの概要について聞かせてください。



創立当初より「専門性に立つ教養人」の育成を大切にしてきた立教大学は、2014年に創立140周年を迎えたのを機に、『RIKKYO VISION 2024』という宣言を作りました。これは2024年に迎える150周年、その時の立教大学のあるべき姿を宣言したものです。その中では「Lead the Way ―自分、世界、そして未来を拓く―」という言葉をステートメントとし、あるべき姿を具体的に策定、それを実現するために、どのような取り組みを行うかを明言しています。具体的にはあるべき姿を「自分を拓く」「世界を拓く」「未来を拓く」という3つのバリューに分け、9つの活動をアクションプランとして提示しました。また、2014年から10年計画でスタートしたのが、未来戦略「Rikkyo Global24」です。これを基にした計画案を策定し、その年のスーパーグローバル大学創成支援事業に採択されました。そのキーワードは「国際化」。地球規模で「いつでも　どこでも　誰とでも」実力を発揮できる人材の育成を目標としています。いつでも、どこにいても力を発揮でき、誰といても相手の力を引き出せるような人。自ら考え、行動し、世界とともに生きることができる人。グローバルリーダーとは、そんな人だと私たち立教大学は考えています。そんな人材になるための必要な学びを、『Rikkyo Global 24』では「グローバルリベラルアーツ×リーダーシップ教育×自己変革力」という言葉で表現しています。また、取り組む領域をより広く「海外への学生派遣の拡大」「外国人留学生の受け入れの拡大」「教育・研究環境の整備」「国際化推進ガバナンスの強化」4つの分野にわけ、合計24のプロジェクトを具体的な数値目標を掲げて推進することを宣言しています。そのほかにも「カリキュラム改革」「立教の新入試」を進め、150周年に向け「自由の学府」である立教大学の伝統を守りつつ、新たなステージへと挑戦していきます。

『Rikkyo Global 24』では具体的にどのような取り組みを行われるのですか？

『Rikkyo Global 24』では育成する人物像を、「専門性に立つグローバル教養人」と定めています。先ほどお話しした、「いつでも　どこでも　誰とでも」実力を発揮できる力を持った人材と同意です。

これを『Rikkyo Global 24』では「自ら考え（＝思考力）、行動し（＝変革力）、世界と共に生きる（＝共感・協働力）」ことのできる「新しい」グローバルリーダーと表現しています。
この思考力、変革力、共感・協働力を学生全員が身につけ、社会に出て行く大学として、立教大学を進化させていくのが『Rikkyo Global 24』の目的です。
思考力は、社会を導く自立性となります。環境問題、民族・宗教紛争などの地球規模の困難な課題に正面から向き合い、問題の本質を理論的に解明する力を養うことによって身につきます。
変革力は、豊かな創造性に。人、情報、文化、価値観などが国境を越えて流動化している社会に柔軟に対応し、新しい仕組みを生み出していく力を養う中で身につきます。
共感力と協働力は、高い協働性。豊かなコミュニケーション力を基礎とし、異なる文化・習慣を持つ人々と共に課題を解決していく力を身につけることが必要です。
これからこの力を身につけた「グローバル教養人」を、10 年間でのべ 4 万人、世界に送り出すこととなります。その全ての卒業生が、社会全体のグローバル化に貢献するのです。
そのために、「カリキュラムの改革」では、新たな教育プログラムをスタートさせます。核となるのは GLAP（Global Liberal Arts Program：グローバル・リベラルアーツ・プログラム）とグローバル教養副専攻です。そのほか、3 つの大きな取り組みを行います。
GLAP は、英語による授業科目のみで学士の学位を取得できるコースです。外国人留学生と共に学ぶ、新たに設置されるコースで、1 年間の海外留学がプログラムとして組み込まれているほか、留学生との寮生活が予定されています。入学時点では専門分野を細かく定めず、国際社会で活躍できる力を、様々な分野から身につけることができます。
グローバル教養副専攻は、10 学部全ての学生が履修可能なプログラムです。英語による科目を中心として展開される数多くのコースの中から、自らの興味・関心に応じて選択し、4 年間で 26 単位以上を修得することになります。各コースには、短期・中期の海外体験プログラムが含まれており、修了した学生には大学から「副専攻修了証」を授与します。
このほか、教養科目・専門科目・正課外活動を有機的に結びつけた RIKKYO Learning Style と呼んでいる「立教大学学士課程統合カリキュラム」も特徴的です。自分がどのような専門領域でグローバルリーダーとなりたいかを策定し、その目標を実現するための学びを、自分で選択できるカリキュラムです。講義は専門分野や難易度でナンバリングされており、オンラインで目標にどれだけ近づいているか、随時確認することができます。一人ひとりの夢に適した学びと実力を得ることができるカリキュラムになっていると言えます。同様に、立教大学オリジナルのアクティブ・ラーニング手法による「新しいリーダーシップ教育」、外国人留学生を対象とした英語のみで修了できる「国際連携大学院プログラム」もスタートしています。
大きな変革を遂げた「立教の新入試」では、一般入試の全学部日程において「グローバル方式」を採用しました。定められた英語 4 技能資格・検定試験において、所定の級・スコアを満たせば、一般入試 全学部日程で各学部学科が指定する英語以外の 2 教科の合計点で合否判定を受けることができる入試です。高校で意欲的に英語を学んでいれば充分に資格取得可能な、「CEFR B1 レベル」を基準としています。そのレベルに達するまで、英語 4 技能資格・検定試験は何度でも受験できますから、従来の一発勝負の入試と比べ、高校 3 年間の学習成果を存分に発揮することができます。
また、国際コース選抜入試も 2 つの学部でスタートしました。「異文化コミュニケーション学部」と「社会学部」です。グローバル社会に貢献できる人材を育成するコースや、英語のみで専門科目の卒業要件単位を修得できるコース等での学修を希望する学生のための新入試です。

どちらの新入試も、英語を核としたグローバル教養が試される入試となっています。
そして、取り組みの胆となるのが、24 のプロジェクトです。
先に述べたように、4 つの分野で 24 のプロジェクトを推進しています。その代表的なものについてご紹介しましょう。
Ⅰ.「海外への学生派遣の拡大」については、最大のチャレンジであり、この取り組みの最大の特徴でもあります。
プロジェクト（1） ―全学生を海外へ
5 年後に 50%、10 年後の 2024 年度には全ての学生が、卒業までに留学やインターンシップなどで海外を経験することを目標としています。そのために留学・海外研修プログラムの充実、奨学金などの制度の拡充、渡航前後のサポート体制の強化を行っています。
プロジェクト（2） ―TOEIC730 点以上が 50%、全員が 600 点以上
海外経験だけでなく、大学でも英語力の伸長を目的に、少人数でコミュニケーションを主題としたカリキュラムを充実させ、グローバル力の基礎を培います。5 年後には、学生全体の中で TOEIC730 点以上が 50%、全員が 600 点以上を目指します。
プロジェクト（3） ―学部・学科の全学生が、海外研修に参加するカリキュラムに
プロジェクト（4） ―国際サービスラーニングプログラムを拡充
プロジェクト（5） ―海外インターンシップの拡充
プロジェクト（6） ―日本人学生と留学生が集うグローバルラウンジを整備
Ⅱ.「外国人留学生の受け入れの拡大」も大きな取り組みです。海外に行くことだけが、グローバルラーニングの機会になるわけではありません。キャンパスを世界に開き、世界の情報を受信し、そして発信できる場所にすることも大切です。
プロジェクト（7） ―グローバルキャンパスの実現
現在約 500 人の外国人留学生を、5 年後に 1000 人、10 年後にはさらに倍の 2000 人を受け入れることを目指します。学生はキャンパスにいながら、多様な文化・言語に触れることができるのです。
プロジェクト（8） ―海外大学との提携で、ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリーの共同開発
経営学研究科国際経営学専攻（MIB）では、いくつかの大学と DD プログラムや JP プログラム、海外インターンシップを展開、共同開発中です。
プロジェクト（9） ―国際機関拠出奨学金による大学院留学生受け入れ
プロジェクト（10） ―英語教授法を専攻する大学院留学生受け入れ
プロジェクト（11） ―英語による学位授与コースの開設
プロジェクト（12） ―日本語および日本に関する科目などの充実
Ⅲ.「教育・研究環境の整備」も急務です。今後 10 年間で、のべ 4 万人が海外を経験し、グローバル教養人としての力を身につけることになります。そのために様々なプロジェクトを進行させ、環境を整えています。
プロジェクト（13） ―海外協定大学を 133 大学から 300 大学へ
5 年後までに 210 大学、10 年後には 300 大学を目指します。立教大学を含む聖公会（英国国教会系キリスト教）のネットワークも生かします。これにより、学生は多種多様な選択肢から自分の目標実現のための海外経験をチョイスすることができるのです。すでに協定校は 160 校を超えています。

プロジェクト（14） ―海外拠点の設置
プロジェクト（15） ―グローバル・リーダーシップ・プログラム（立教 GLP）
グループワークとプロジェクト型学習を通じ、「チームを活性化させ、周囲を巻き込んでいくリーダーシップスキル」を養う、立教大学オリジナルの「グローバル・リーダーシップ・プログラム」です。
プロジェクト（16） ―「国際協力人材」育成プログラムの推進
プロジェクト（17） ―留学生支援環境の整備
プロジェクト（18） ―科目ナンバリング制度・4 学期制・GPA 制度の導入
Ⅳ.「国際化推進ガバナンスの強化」では、学生・カリキュラム・環境や制度の国際化を推進し、大学運営サイドの国際化を目的としています。
プロジェクト（19） ―外国人教員比率を 20%に
現在の 14%から 10 年後には 20%の外国人教員比率を目指します。海外の著名な研究者を招き、世界の最先端の学びを、立教大学にいながら学ぶことができる環境を整えます。
プロジェクト（20） ―総長のリーダーシップによる国際化推進のためのガバナンスを強化
プロジェクト（21） ―グローバル人材としての素養を持つ学生受け入れのための入試改革
プロジェクト（22） ―国際交流寮の拡充
キャンパス近隣に 3 つの国際交流寮（全 334 室）があり、現在約 100 名の外国人留学生が日本人学生と共同生活をしています。今後も新設・拡充し、交流の活性化を促進します。寮はさらに増設中です。
プロジェクト（23） ―職員の国際化対応力の強化
プロジェクト（24） ―グローバル企業や国際的な機関による外部評価

この 24 のプロジェクトは、それぞれ独立して行われるのではなく、2024 年の立教大学 150 周年をゴールとし、それぞれが補い合い、刺激し合って、成果を生み出し、「あるべき姿」を目指します。それが『Rikkyo Global 24』の取り組みなのです。

最後に高校生へメッセージをお願いします

立教大学は東京の池袋と埼玉県の新座にキャンパスを構えています。池袋は、様々な国の人々が行き交う、いわば世界の縮図とも言える地域へと成長し続けています。その環境で大学生活をおくる学生に、もっと身近に世界を感じてもらい、そして世界について考え、世界で通用する力を身につけて欲しい。その先にあるのは「海外の会社に就職する」「海外に移住する」といった短絡的な目的ではありません。昨今では、日本にいながらにして、英語を共通語としてビジネスを行う企業も多く増えてきました。これは、日本も世界の一部ですから、当然の流れと言えるでしょう。どんな場所にいても、どんな人といても、いつも自分の力を発揮できる。そのために基礎の基礎として英語の力がより必要とされているのです。そして世界を知り、考え、自分の意見を発信することが、ますますボーダーレスの進むこれからの社会では必要とされるでしょう。その力を身につけるための環境、チャンスが、立教大学にはあります。
この大都市圏での生活は何不自由なく、様々なものが手に入ります。だからこそ、立教大学に通う学生たち全員に、海外を経験して欲しい。様々な生活、民俗、そこに根付く文化を体感して欲しいと私は考えています。その中で「便利＝ハッピー。不便＝アンハッピー」ではないということに気づいて

欲しい。その気づきが、きっと未来を考え、世界をあるべき姿に、理想の世界に変えようと思うきっかけや原動力になるはずですから。
未来を、自分を、そして世界を拓きたいという夢を持った皆さんに、ぜひ立教大学の門をくぐっていただきたいと思います。

インタビューに答えていただいたた方



■山口和範
立教大学 副総長
国際化推進担当

所属・職位：経営学部経営学科教授
専門分野：統計学（統計計算）
1985 年 3 月九州大学理学部卒業、1990 年 3 月九州大学大学院総合理工学研究科後期課程単位取得後退学、理学博士。1990 年 4 月立教大学社会学部講師に着任。1999 年 4 月同教授。2006 年 4 月経営学部教授。教務部長、入学センター長、全学共通カリキュラム運営センター部長、経営学部長を歴任。

※内容は 2016 年 2 月当時のものです。